

銅像は街の顔

キャプテン翼ワールド

今回は「キャプテン翼」ワールドだ。東京・京成電鉄押上線四ツ木駅には「キャプテン翼銅像めぐりマップ」が備えられている。作者高橋陽一氏の出身地ということもあり、隣の立石駅あたりまで翼ワールドの銅像が散在している。小一時間、この世界に浸るのも一興である。



東立石・渋江公園には、フィールドのアーティストと呼ばれるテクニシャン・岬太郎くんが得意のドリブル開始。



翼の同級生で通称「あねご」の中沢早苗。転校してきた彼に一目惚れ、のちのち結婚することになる。葛飾郵便局前。

四ツ木駅すぐ近くの石崎了。彼得意の「顔面ブロック」を決めた瞬間だろうか。気合がまわりにみみぎる。



立石駅にほど近い高橋氏の母校都立南葛飾高校の正門横にはシュート体勢に入った翼くんが。

日本伸銅協会における研究開発支援活動

(一社)日本伸銅協会では学の協力を得て会員企業同士の協調型研究活動を続けており、昨年度も次のような活動を行った。

1 2018(平成30)年度より3年間、4社、5大学、助成金総額9億3千万円のプログラムを国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より受託し、①高強度黄銅棒・管の開発及び②ベリリウム銅の接合技術開発に関する研究を行った。テーマ名は「省エネルギー戦略に寄与する“ヘテロナノ”超高強度銅合金材の開発」で、①、②の課題とも優れた研究成果を得た。

2 新規技術開発検討会活動として、「MI/AI研究会」を昨年度5回に渡りウェブ開催し、会員企業より毎回40名余りの参加者を得た。社会のDX化に必須な技術であるMI(マテリアルズ・インテグレーション)の理論と応用を学ぶ貴重なセミナーであった。

3 この活動の成果として、NEDO2021年「マテリアル革新技術先導研究」に応募。1億円/年、2年間のスキームに、5社、1国研、3大学で取り組む予定である。

4 この他にも①八戸高専新井准教授と8事業者による「熔融金属中介在物の気泡補足及び凝集に関する研究」(現在は学と産が連携する日本銅学会研究部会にて活動中)、また②名古屋工業大学栗田准教授と3事業者が2017(平成29)年度より取り組んでいる「熔融銅用起電力型水素センサ実用研究」も協会として支援している。